

直方川づくり交流会 九州「川」の

ワークショップでグランプリ受賞

11月11～12日に大分県で行われた第17回九州「川」のワークショップin大野川で、グランプリを受賞した直方川づくり交流会が11月21日に報告に訪れました。この催しは、九州各地の河川流域で活動している団体・企業等が一堂に会し、日頃の自然環境保護活動や地域づくり等の発表を通して、情報共有や意見交換を行うとともに、次代を担う人材の育成や流域連携の促進も目指しています。

直方川づくり交流会は「遠賀太郎は世界一」と題して、川づくりに携わる若手の育成活動について、寸劇を交えて熱く発表。出場45団体のうち見事グランプリを受賞しました。野見山ミチ子理事長（76）は「練習を重ねた皆の演技が素晴らしかったおかげで、グランプリを獲ることができました」と喜びを語りました。市長は「市の強みのひとつとして長い歴史をもつ遠賀川がある。会のスローガン『川づくりは人づくり』を実現している」とたたえました。

遠賀川は直方の象徴



直方法人会が租税教育

プレゼンテーション最優秀賞受賞

11月9日～10日に、第31回「法人会全国青年の集い」高知大会で租税教育プレゼンテーションが行われ、直方法人会が最優秀賞を受賞し、11月22日に受賞報告を行いました。この大会は、次代を担う子どもたちへの租税教育活動推進、全国の青年部会間での情報交換・交流等を目的に毎年開催されています。直方法人会は、九州北部法人連合会（福岡・佐賀・長崎）31単位の代表に選ばれ、全国440単位の頂点に立ちました。

10分間で「税に込められた想いを伝える租税教育活動」をテーマに日頃の活動を発表し、最優秀賞を受賞。市内全校での租税教育活動や、地元文化施設や企業を巡りながら子どもたちに税の啓発活動を行うといった、特色ある取り組みが評価されました。プレゼンテーションを行った藤永勝巳さん（50）は「これを機に、ますます租税教育に力を入れていくとともに、新しいことにも取り組んでいきたい」と気持ち新たにしています。

税を学んで日本の将来を考えよう



姉・弟でV報告 南原朱里さん・士龍さん

空手の大会で優勝と3位入賞

12月15日、新極真会主催第49回オープントーナメント全日本空手道選手権大会（女子無差別級）で優勝した南原朱里さん（18）と、第3回全日本少年少女空手道選手権大会2017リアルチャンピオンシップ（小学3年男子クラス/30キログラム未満）で第3位になった南原士龍さん（9）が報告に訪れました。

弟の士龍さんは下境小学校3年生。2歳頃から家族の影響で空手を始めました。38人中3位という成績にも満足していないようで「次は優勝したい」と目標を掲げました。姉の朱里さんはこれまでにも多くの大会で優勝しており、現在は空手の指導員としても活動しています。同大会には3回目の出場となりますが、今大会で見事初優勝。リラックスした状態で試合に臨めるようになったことや、この7月にウエイト制空手道選手権大会で優勝したことが自信になったといいます。朱里さんは「無差別級の世界大会優勝に向けて、一つひとつ試合を勝ち抜いていきたい」と抱負を語りました。

今後も空手道を突き進みます



市民栄誉賞・市政功労賞 表彰式

11月22日に直方市表彰式を行い、市は洞ノ上浩太さん（43）に市民栄誉賞を、棟形和義さん（68）に市政功労賞を贈りました。

洞ノ上さん（写真左）は、車いす10000メートルとフルマソンの日本記録保持者で、北京・ロンドン・リオデジャネイロパラリンピックの3大会に出場し入賞を果たすなど世界で活躍しています。また、筑豊地域を拠点とした車いすレーサーのチームを結成し、次世代アスリートの発掘、育成に取り組んでいます。洞ノ上さんは「まさか自分が受賞できるとは思っていません。一生懸命やってきて良かった。若手の育成も評価してもらい、今後の励みになります」と喜びを語りました。

棟形さんは、30年以上にわたりボランティアで「遠賀川川下り大会」に携わり、他にも「懐かしの青春歌謡・歌声喫茶」を開催するなど、地域に根付いた活動を通して環境美化の啓発や高齢者への生きがい提供を続けてきました。棟形さんは「これまで継続してきたことが力になっています。自分の活動はまだまだ現在進行形。これからも頑張ります」と決意を新たにしました。

それぞれ異なる分野で活躍中



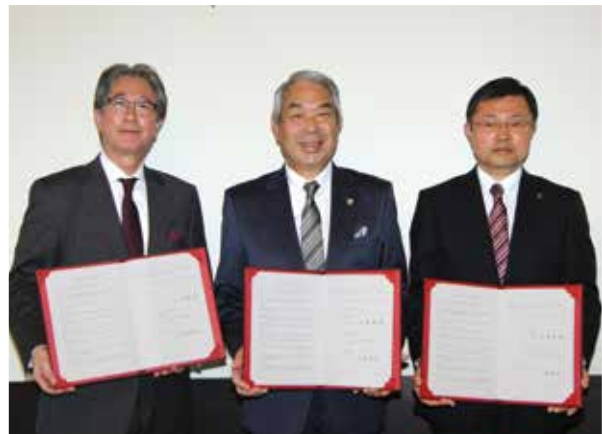
株式会社平島の工場新設に伴う

立地協定締結式

株式会社平島が上頓野産業団地に工場を新設することが決定し、11月22日に立地協定締結式を行いました。同社は昭和27年に創業し、熊本県に2営業所、鹿児島県に1営業所を構えています。事業内容は、ルーフデッキ等の建築用外装材（主に金属屋根材）の製造・販売です。県内企業との受注拡大に伴い、生産能力の増強を図るためにこのたび工場を新設する運びとなりました。

直方市での操業開始の決め手は、自然豊かなこと、福岡市と北九州市の真ん中にあるというアクセスの良さ。平島良介社長（写真中央）は「直方市には大歓迎してもらっている。今日飾っていただいたこの花のように直方で大きな花を咲かせようという思いです。今日11月22日は『いい夫婦の日』。直方市といい夫婦になるように励んでまいります」と挨拶しました。市長は「目には見えない縁を感じています。感謝の意を込めて歓迎いたします」と話しました。

今後の展開に期待



何歳になってもパワフルに

のおがた元氣フェスタ初開催

11月23日、中央公民館と男女共同参画センター、同敷地内の駐車場で「のおがた元氣フェスタ」を開催しました。市民に健康づくりや生活支援に関する取り組みを広く知ってもらおうと、初めて行われたものです。中央公民館では、講演会や認知症予防教室、ボランティア活動の紹介、健康相談等を行いました。また、薬膳料理教室やヨガ講習等を男女共同参画センターで、バスの乗車体験やお届けサービスの紹介等を駐車場で実施。参加者は思い思いにイベントを楽しんでいました。

講演会「脳を若々しく保つために」では、脳の老化を防ぐ方法を講演しました。また、今年100歳の幸田幸重さんもインタビュー形式で「好きな食べ物野菜。畑仕事も長年していました」と長寿の秘訣を教えてくれました。講演を聴いた中山ひふみさん（76）は「今日学んだことを普段の生活に取り入れていきたい」と語りました。

健康について楽しみながら学習

